

上田市教育委員会 2月定例会会議録

1 日 時

平成25年2月12日(火) 午後2時00分から午後3時32分まで

2 場 所

上田市教育委員会(やぐら下庁舎) 2階会議室

3 出席者

委 員

委 員 長	西田 不折
委員長職務代理者	城下 敦子
委 員	小市 正輝
委 員	山崎 順子
教 育 長	小山 壽一

説 明 員

武井教育次長、廣川教育参事、小野塚教育総務課長、倉島学校教育課長、久保田人権同和教育係長、土屋文化振興課長、宮澤生涯学習係長、荒井スポーツ施設係長、児玉丸子地域教育事務所長、掛川武石地域教育事務所長、藤沢真田地域教育事務所長、矢島丸子学校給食センター所長、倉澤博物館長、坪田上野が丘公民館長

1 あいさつ

2 協議事項

(1) 信州大学との連携に関する協定について(教育総務課)

資料1により小野塚教育総務課長説明

西田委員長

17年3月に締結されている包括協定について、特に第2条第4号の連携に関して具体的にこれまで行ってきたことはあるか。

小野塚教育総務課長

学校教育分野では、学生が学校の中を見たり活動に参加してもらったりというような例がある。長野大学とは結構行っている。

宮澤生涯学習係長

信州大学に限らず、市内の4大学と同じような協定を結んでいる関係上、4大学のリレー講座ということで各大学を結んだ講座を開催している。

城下委員

A R E Cはこの協定と関連しているのか。

小野塚教育総務課長

A R E Cと信大とは連携しながらやっておりA R E Cを通じて上田市との連携というものもあるが、協定以前から行っているものであり協定とは直接関係ない。

城下委員

A R E Cはかなり活発に活動していると認識しているが、この連携協定はそれと同程度のボリュームの活動を期待しているのか。そこまでのボリュームとなると学校側の負担も大きくなるが、学校現場の意見はどうか。

小山教育長

大掛かりなものは想定していない。こちらからというよりは大学側から中学校現場や教育委員会に対してさまざまな連携や協力を望んでいる。その際、財政的な持ち出しはないが、人的な面での協力ということになるだろう。

小市委員

具体的な連携事項を見ると、繊維学部の学生が教員免許を取って教育現場で勤務したいという希望の一環であると思われるが、座学が多いのではないか。

(1)については、実際に教員になったときに、例えば、子どもたちと遊べないとか、言葉を交わすことができないとか、あるいは、目の前にいる子どもたちが何を考えているのか把握できないということがあって、若い先生が学級経営など現場のさまざまな部分で困難を抱えている。そうした面からは、例えば授業参観だけでなく、子どもたちと遊ぶ場面に入ってくるとか、全校体育や部活動に参加するとか、進路相談に自分の経験を活かして話をす

るなど、そうしたことが大切ではないか。教育課程の授業研究というのは学校が取り組んできた成果を発表するもので、実際の現場がなかなか見えない。

(2)については、現職教員の話からリアル感は伝わると思うが、系統性や継続性の問題を考えると難しいのではないか。むしろ、教員のOBが大勢いるので、そうしたOBをコーディネートして系統的・継続的にやるほうがより深まるのではないか。その中に現職教員の具体的なものを折り込んだほうが良い。

廣川教育参事

地域として、上田市として、皆で教員を養成していこうということとは非常にいいことである。(1)については、現在の状態でもできる内容である。(2)については、時間的なものを考慮すれば可能ではあると思うが、現場の先生方は大変忙しいため、教育委員会の指導主事等も含めた形であればできることであるとみている。

山崎委員

実際の授業参観や講義は現場の先生方が行うので、このような内容で協定を結んでいいのかということを校長会などで聴くということはあるのか。

小山教育長

協定を結ぶ結ばないにかかわらず、協力はしていかなければいけないという面もある。校長会には、こうした申し出があり、できるだけ学校現場には負担を掛けずにやっていきたいが、正式に協定を結び協力したいという提案をして了解は得ている。学校にはできるだけ負担を掛けないようにしたいという前提である。

西田委員長

県教委からは、昨年、教員採用試験の応募数が減ってきているという話があった。優秀な先生を確保するために広く大勢の応募を求めたいのなら、新卒の採用あるいは他府県から長野県への採用ということになる。基本的にはなるべく多くの優秀な先生を確保したいということだから、そういう意味では信大繊維学部を卒業し長野県の教員採用を受けてくれるとすれば、研修の場を提供することになり広い意味で質の向上に協力することになる。ただし、開かれた学校ではあるが、一番は学校現場にいたずらに負担が掛かったり、生徒への影響も考慮しなければいけない。返答に期限はあるのか。

小野塚教育総務課長

特にいつからということはないが、区切りとしては新年度からということも考えられる。こちらの方針がはっきりしてくれば、具体的に進めていくことになる。

事務局としては、包括協定が既にあるため、その協定の中でできるものなのか、あるいは改めて個別の協定として結ぶべきものなのか、市長部局と相談しながら判断しなければいけないが、協力すること自体は現場の了解も得ており特段問題はないと考えているので、それを形として見せるかどうかという検討が必要である。

西田委員長

信大の学生にとってメリットがあるが、上田市の義務教育全体にとっては何かメリットはあるか。

小山教育長

教員の養成にかかる資質向上の指針の中に、教員を目指す学生は1年生2年生の早い段階から学校でボランティアとして子どもたちと交流をしたほうが良いという提案もされており、そのようなことも是非行って頂きたいということは言っている。特に、繊維学部の学生は理科の教員になるので、例えば、小中学校の理科の授業の実験や観察のアシスタントのようなことも考えられるかと思う。

小市委員

上田市は地域支援本部事業を積極的に進めていこうという方向性もあり、その面からこの仕組みを活用できればよい。無償のボランティアを募るのはなかなか難しいので、学生に活動して頂ければ大変ありがたい。

城下委員

長野市には信大の教育学部があるが、そちらはどういう状況か。

小山教育長

長野市と信大も同じような協定を結ぼうとしており、教育学部に加えて工学部も含めて結びたいと考えている。松本市でも同様の話があるが、聞くところによると松本市は包括協定があるため必要ないと考えている段階である。長野市は協定を結ぶ方向で検討しているが、まだ結んではいない。

西田委員長

教育委員会としては、協定に前向きな方向で了承することとしたい。協定により不都合が生じるようなことがあれば別だが、教員養成に協力するということで進めてもらいたい。

全委員 了承

(2) 上田市教育支援プランの見直しについて(学校教育課)

資料2により倉島学校教育課長説明

西田委員長

教育支援プランの見直し内容は、学校現場とはどのように共有しているか。

倉島学校教育課長

見直し後のプランについては、年度当初の校長会で配付している。新しく上田市に赴任した校長先生に対しては、会議の中で、上田市としてこうしたプランを作成しており、このような目標を持って学校あるいは子どもたちに対して支援をしていくということを詳しく説明している。

小市委員

プラン1の「わかる、楽しい授業の推進」について、推進の主語は上田市であり、市長部局や教育委員会事務局が研修機会の充実を図っていくことであるが、教員相互による授業研究などは学校現場で行われることである。学校現場で行うことについては、例えば、同僚の授業に他教科の教員が参加して自分自身の教科指導を見直すなどの研修を取り入れていると

ころもたくさんあるが、具体的な取組を入れてもう少し切り込んでどうか。このプランを見たときに、誰が主体でどのようにするのかというところが明確ではない。

倉島学校教育課長

プラン全体が、上田市と上田市教育委員会が市民の皆さんに約束して行っていくものであり、校長先生方には説明が必要だと考えている。ただし、具体的には、市が支援できる部分と学校独自で考えてもらいたい部分があるので、学校独自の取組は校長先生を中心に進めてもらうことになる。

廣川教育参事

各学校では学校長は学校経営計画を立てるが、4月から5月にかけての教育長の学校訪問の際に、この支援プランのプランナンバーを示して教育長も指導しながらプランの具体化を行っている。また、各学校では自己評価をしていくわけであり、評価カードに具体的なプランを入れてホームページに載せ、中間、年度末に自己評価を行う。

また、支援プランの見直しについても校長会でも諮っており、校長会の代表者何名かによって意見を出し合い修正している。

城下委員

教育支援プランは市民に対する約束であるが、このプランの存在が保護者には見えていないと思われる。上田市の教育はこういう目標でプランを立ててがんばっていることを、例えばダイジェスト版を作成して小学校の入学式で保護者に配布するというような工夫をしてはどうか。市長部局、教育委員会、学校の先生の中だけで取り組むのではなく、保護者や家庭を巻き込みながら目標に向かっていく事業ではないか。一保護者として見たときに、初めて知ること、目からうるこのようなことも記載されている。

倉島学校教育課長

膨大な量があり示し方に工夫が必要である。部局ごとに毎年の重点目標を広報で知らせているが、学校教育分野については教育支援プランの中から絞り込み、今年はどういったところに力を入れてやっていきたいということを示しているのが現在のやり方である。詳しい部分の説明が必要かどうか、どういう形が保護者に分かりやすく効果的なのかを検討したい。

西田委員長

PRのひとつとしてPTAの代表に知らせたりすることはないのか。市長部局と教育委員会の内部目標のような受け止め方になっているのではないかと。行政と教育を担う学校と保護者と三位一体になって初めて問題が深まっていくので検討願いたい。

小市委員

プラン9に「特別な支援が必要な児童・生徒への支援」とあるが、先日の校長会でも、特別な場所を設けて子どもたちに対して教育をしていく現在のシステムではなく、これからのインクルーシブ教育の状況に合わせながら特別支援教育を考えていく必要があるという話があった。このことについて「特別な支援が必要な児童・生徒への支援」の部分は整理されおらず、上田市としての方向性が見えない。今、特別支援教育は岐路にあり、現在の仕組みがいいのか、あるいは通常学級にいて必要に応じて特別支援学級に行くのかを考えていく必要があるのではないかと。

小山教育長

教育支援プランは、市民に対して教育委員会と市長部局が足並みを揃えて、このような教育をしていくという約束として作成したものである。同時に、学校は学校で今年度の学校教育目標を立てている。年度当初には学校の教育目標やグランドデザインといわれるものを保護者に対して示し、4月下旬のPTA総会頃までには評価シート作成し、今年はこのように学校の取組を進め評価するということを公表する。教育支援プランと学校の評価シートの両方があると膨大な量の文書にもなるが、保護者には周知したほうがよく、ホームページに載せるだけでは不十分であるならばPTAの会合などで説明することになる。

しかし、一番の保護者と直面しているのは、まずは学校であり、まず学校の教育方針や教育目標を理解してもらうということが大事である。

城下委員

ダイジェスト版を作成して小学校の入学式などに配布し、保護者に知ってもらうことが大切である。教育委員会は何をやっているのかと問われる昨今において、ダイジェスト版が目に入り、保護者にとって取組の狙いが分かり評価も分かればやっている意味がある。

西田委員長

市民にどう説明するか、ひとつの方法としてPTAなどにPRがあってもいいのではないか。このほか、更に修正等の意見があれば事務局に知らせてほしい。

全委員 了承

(3) 上田市文化財保護審議会委員の任命について(文化振興課)

資料3により土屋文化振興課長説明

全委員 了承

(4) 市長表彰の授与について(学校教育課)

追加資料により倉島学校教育課長説明

全委員 了承

3 報告事項

(1) 平成25年度当初予算の概要について(教育総務課)

資料4により小野塚教育総務課長説明

全委員 了承

(2) 浦里小学校の校舎再建を求める署名について(教育総務課)

資料5により小野塚教育総務課長説明

全委員 了承

(3) 生涯学習シンポジウムの開催について(生涯学習課)

資料6により宮澤生涯学習係長説明

全委員 了承

(4) スポーツ関係教育長表敬訪問者報告(スポーツ推進課)

資料7により荒井スポーツ施設係長説明

全委員 了承

(5) 行事共催等申請状況について(教育総務課・学校教育課・生涯学習課・文化振興課)

資料8 - により小野塚教育総務課長説明

全委員 了承

資料8 - により倉島学校課長説明

全委員 了承

資料8 - により宮澤生涯学習係長説明

全委員 了承

資料8 - により土屋文化振興課長説明

全委員 了承

4 その他

坪田上野が丘公民館長より公民館だよりの説明

倉澤博物館長よりひなめぐりの説明

閉会